

2022 公立入試問題・国語 入試分析

【出題傾向】

文学的文章・説明的文章・原稿問題・古文・作文と例年通りの問題構成でした。記述問題は例年と比べ、文字数の制限が少なくやや易化しました。作文はポスターに加え、図といった資料が加えられていたので2つの資料を踏まえて書くことができているかがポイントです。全体的に易しいため、記述問題が正答できるかで差がつくと考えられます。

【問題分析】

一、文学的文章（小島陽太郎『ぼくのとなりにきみ』）

基本レベルからの出題でした。漢字の読みも前後の文から予想が付きやすいものでした。今回は記述が40字程度と少なく、内容も何を書くかが明確なため比較的正答を導きやすい問題でした。むぎの講習で確認した「登場人物・背景・事件」の3つのポイントをおさえること、とくに「事件（出来事）」の前後の登場人物の心情の変化を確認することが大切です。

二、説明的文章（五木寛之『生きるヒント』）

例年通りの問題構成で、基本レベルからの出題が多くありました。品詞の識別は、形容詞のペアを見つけるという王道の問題でした。むぎの講習や100問チェックテストが的中しました。問六の記述は難易度の高い問題でした。筆者が引用した柳宗悦の言葉からわかる「〈知〉の危険性」とは別の「感性」による危険性をしっかりおさえられるかがカギでした。むぎ流の“ロジカルリーディング”の駆使から正しく正答を出すことができました。

三、原稿問題

例年通りの問題構成です。慣用句を答える語句の出題もしっかり出ています。9点分取りこぼしのないようにしたいところになります。

四、古文

内容理解に関わる問題がどちらも記述で解答させる問題になっています。ただ、どちらも基本レベルからの出題でした。現代仮名遣いや主語を識別する問題を含め、本文から読み取れる教訓も基本レベルでした。

五、作文

2つの資料から読み取れる内容を踏まえて、考えを書くことができているかが重要です。

【今後の対策】

- ① むぎ流のロジカルリーディングを訓練しながら過去問でしっかり読み解くポイントや技術を自分のものとなるようにしていくことが重要です。
- ② 語句の知識を養うために常日頃から分からない言葉や漢字は調べる習慣をつけること、そして、読書習慣を身に付けましょう。
- ③ 文章表現などの解答の仕方や作文の正しい書き方を身に付けるためにも、第三者に採点してもらいましょう。